

桐生市・みどり市認知症ケアパス作成プロジェクト 第1回コア会議議事録

日時：令和6年6月14日（金）14:00～16:00

会場：桐生市総合福祉センター101会議室

<参加者> 13名（別紙参加者名簿参照）

<司会> 菱風園 松井さん

1 挨拶：菱風園 松井さん

2 配布資料確認：小川

・松戸市 認知症担当者に運用情報を確認。

H27年委員会が立ち上がり作成。当初は1冊だった。説明するために概要版、ボランティア隊向け研修のために資料集を作成。作成はしたが、有効活用できていない現状がある。
→認知症ケアパス作成後、どう運用していくのか、使いやすいものがポイントになってくる。

3 議事

(1) 第1回全体会議の振り返りについて（資料1）…田村

→資料1に沿って前回会議の確認

(2) 認知症ケアパス項目修正案について（資料2）…香取

→3つの基本について再確認 ①認知症に関する基礎的情報 ②相談先 ③地域の社会資源
認知症ケアパスの手引きを意識しながらすすめていく。

(3) 桐生市・みどり市認知症ケアパスのイメージについて（資料3）…小川

→事務局で検討…認知症ケアパスと社会資源についての資料の2冊を提案

① 認知症ケアパス（本人・家族向け）…本人・家族が傷つかない表現にする

→単独で機能出来る様にしたい

② 認知症社会資源集（専門職向け）…資源を網羅するもので市民が見てもわかるような記載、
資料5の社会資源についても記載したい。内容についてはコア会議で決める。

課題：QRコードを入れるか

ケアパスに参照ページを入れるか

医療と介護のお助けマップに認知症カフェを入れ、資料集とリンクさせるかどうか

→資料集の工夫でリンクしなくても利用できるのではないかな。

(4) 認知症ケアパス（本人・家族用）イメージ（案）について（資料4）…小川

・サイズについて→A5かA4か … A5の場合は4ページ単位での調整

P1.表紙 … デザインをどのようにするか

P2.両市の方針 … 変わるたびに見直しが必要

P3.当事者の声 … 桐生市の希望大使の橋本さんの声を入れるのはどうか？

P4-5.認知症の基礎知識 … もの忘れの症状が一般的であるが、もの忘れの症状が出ない認知症もあるため、代表的で特徴的な症状をそれぞれ記載。

P6-7 認知症の症状と周りの人が心がけること … 地域の方にわかってもらいたいことの項目を検討。ポイントとしては、本人の暮らしにプラスになるもの・表現の仕方に注意・家族のハードルが下がるもの。

P8.接し方のポイント … わかりやすいものを具体的に。本人や家族のメモ欄があるとよいかも。

P9.予防について … 水戸市ケアパス P4 がシンプルでわかりやすい

P10-11.チェックリスト・フローチャート（イメージ） … チェックリストからフローチャートにつながるよう見開きで掲載したい。エビデンスが必要であるが、表現方法も考える。病院や地域包括支援センターへつながりやすくなるよう、1歩目になるものにしたい。

P12-13.受診のメリット・ポイント … 1歩目の相談につながるもの。認知症サポート医が掲載されている群馬県 HP リンクを載せるかどうかは医師会と相談する。

P14-16.認知症ケアパス … タイムラインではなく、初期、中期、中期以降の分け方で、必要な社会資源や症状をブロックで表示。各サービス等、社会資源集へのリンクを検討する。

P17-19.社会資源 … 両市役所、各支所。両市地域包括支援センター、両市に関わっているセンター等、視覚的に位置関係がわかりように掲載。社会資源集へのリンク、社会資源マップとの連動を検討。

P20.裏表紙 … イラストかメッセージかを検討。

(3)・(4)・(5) について協議

*基本の形 … 3点をベースに2冊作成はどうか。

①認知症に関する基礎的な情報	→)	①②については <u>認知症ケアパス</u>
②相談先・連絡先	→		③については <u>社会資源集</u>
③地域にある社会資源の整理表	→		で対応していくのがよいのではないか。

*サイズについて … A4 か A5 かを検討

・A4：情報量は多く入れられる・高齢者世帯が見やすい（家族は50～60代が多い）
目にとまりやすい・他の資料に埋もれがち

・A5：手に取りやすい・持ち運びしやすい・入り口として利用し先に繋げる
内容が収まらない可能性あり・他の資料に埋もれがち

・本人、家族に向けて、手に取ってもらえるもの・見やすいもの・文字は大きいもの

→A4版の素案を作成してみる。比較し、みなさんからの意見をいただき検討する。

*基礎知識について

・もの忘れ＝認知症のイメージにならない説明。もの忘れのない認知症のことも知ってもらおう。
生活する上での難しさや困難さを入れるとよい。本人、家族目線のイメージで。

*認知症ケアパスの構成について

・最初にチェックリスト、最後に本人の声を掲載すると流れがよい。

- ・早期に専門機関に繋げることで、家族、周囲、本人との軋轢の時間が短くなり、その後の家族関係に関わってくる。かかりつけ医に正しい症状等情報が伝わっておらず専門医受診につながらないケースもあり、伝える側の努力も必要。本人の困っていることを伝えるメモ欄、記入欄があるとよい。
- ・本人の声は大事。どんな不安を思っているかをわかってもらいたい。
- ・車の運転についてのひとことがあると、考えるきっかけになる。
- ・受診のポイントについて、専門医への受診拒否で家族が連れて行くのが難しいときに、相談先や判断のポイントなど文字の情報があると家族は助かると思う。
- ・チェックリストが入り口で、認知症ともの忘れの違いなど、認知症への理解がすすむよう家族の目線に沿ってページがすすむと家族は助かると思う。最後に本人の声を聞く事で、希望が持て、気持ちが穏やかになれる。
- ・ケアパスは見開きで見られると進行状況の確認がしやすく目安になる。フローチャートはシンプルに。そこに関係機関の連絡先が入っているとよい。
- ・連絡先について…あればあったで迷ってしまう。一つ一つ役割を確認し、どの辺にスポットを当ててるのかを考えて選んでいく。
- ・社会資源とのリンクができ、セットで使えるようになるよう、ボリュームを考えながら作成できるとよい。

(5) 桐生市・みどり市における認知症に関する社会資源について（資料5）…香取

*資料5をもとに、記載漏れ、記載したいことや思っていることを出していく。

- ・資料集としてどこまで掲載するのか。予防に関して入れるか否か、情報として入れるという考えもある。
- ・松戸市のように、カテゴリー別に分けたらどうか
(参加、利用のできるもの・早期発見できるもの・迷ってしまう家族に対する支援)
- ・どこまで、どのような情報を資料集に入れていくかがポイント。
- ・医療機関には退院後の情報として重要なものになる。
- ・チェックリストについて、各地域、行政、いろいろあり統一することは難しい。資料集に入れるものは参考程度なものを選択し、その先は地域のものを使っていくようにしたらどうだろうか。受診の時はこのチェックリスト使う等、使い方を考えるとよい。
- ・具体的にわかりやすいもの。誰が誰に伝えるのか、細かく載せてあるとよい。写真があるとわかりやすく、説明もしやすい。
- ・チェックリストについてのエビデンスは？資源集に入れるのか、ケアパスに入るならいいのではないかと。既存のものもあるので行政とも相談していく。
- ・認知症でなくても集まれる場所のマップ（一覧表あり）を作成している地域もある。
- ・生活への支障の出方によって必要な社会資源が変わる、暮らしの視点でみていくことが大事。支障レベル別、項目ごとに必要な社会資源がわかるとよい。
- ・行政だけでなく、民間のものも載せられるとよい。
- ・高齢者くらしガイドとのすみわけを考える。

- ・生活への支障があった時、その症状に使える社会資源へシンプルにつながりやすいもの。
(例：徘徊、家にいない時が多くなった→どこシル伝言板の情報、地域の見守り隊の情報につながる、QR シール等)
 - ・生活に着目した社会資源を載せるよう検討する。
 - ・カテゴリー、症状別でわかるのも考えのひとつ。
 - ・医療と介護のお助けマップに「地域の社会資源」(オレンジカフェ、サロン等)をいれた場合
注意点：同じ建物内でも相談する場所が違う場合がある
情報を整備しないと使えないことになりうる
- 症状別でわけたものとの併用で、リンクしなくても利用できるのではないかな。
- ・医療機関で利用の場合、症状がわかり、つなぐところがわかると使いやすい。
- 全体メンバーにみてもらい、レスポンスを受け考えていく。
- ・地域差も考慮する。
- 次回までに、文章も入れ形にした素案を作成してみる。(ケアパス、社会資源集)

4 その他

特になし

○次回開催について

令和6年7月16日(火) 14:30~16:30(予定)

桐生市総合福祉センター103 会議室